

第1問

(解答)

イ

(解説)

当座預金勘定の調整に関する問題である。

最初に、銀行の残高をもとにA商店の当座預金勘定の残高を割り出す。

1および2にて、A商店ではすでに銀行の残高を増加させているので、銀行の残高を増加させる。

3にて、A商店ではすでに銀行の残高を減少させているので、銀行の残高を減少させる。

4にて、A商店ではまだ銀行の残高を増加させていないので、銀行の残高を減少させる。以上より、A商店の当座預金勘定の残高は、¥405,000となる。

さらに、修正仕訳として、以下を行う。

1にて、現金の増加を当座預金の増加として誤って処理したため、現金を増加させて当座預金を減少させる修正仕訳を行う。

2はA商店の誤りはなく、修正は不要。

3は決算日現在、小切手はすでに仕入先に渡しており、誤っていないので修正は不要。

4は、この取引をA商店は記帳していない。電子記録債権が当座預金口座に振り込まれたため、当座預金を増やし、電子記録債権を減少させる修正仕訳を行う。

よって、 $¥405,000 - ¥60,000 + ¥90,000 = ¥435,000$ となる。

従って、正解はイである。

第2問

(解答)

エ

(解説)

無形固定資産に関する問題である。

無形固定資産とは、具体的な形がないが長期にわたって利用または所有し、収益をもたらすことが期待される資産のことであり、権利や特許等が例として挙げられる。

また、のれんは、合併や買収に要した金額が、合併・買収した会社の純資産を超える部分として計上されるものであり、その差額は企業の持つブランド力と表現できることから、無形固定資産として計上される。

一方、リース資産はリース取引によって得た資産を指し、有形固定資産であり、不適切である。

さらに、長期前払費用は、未だに提供されていない役務に対して、当期に前もって支払った費用のうち、決算日の翌日から1年を超える期間を経て費用化されるものであり、固定資産のうち「投資その他の資産」として記載されるため、不適切である。

従って、正解はエである。

第3問

(解答)

ア

(解説)

総合原価計算に関する問題である。

先入先出法を用いることから、月末仕掛品の金額を確定させたあと、合計金額から月末仕掛品を差し引いて当月完成品の金額を求める。

<材料費>

月初仕掛品 200kg	30,000円	当月完成品 300kg	70,000円 (注2)
当月投入 300kg	120,000円		
		月末仕掛品 200kg	80,000円 (注1)
合計 500kg	150,000円	合計 500kg	150,000円

注1) $120,000 \div 300\text{kg} = 400\text{円/kg}$

$400 \times 200 = 80,000\text{円}$

注2) $150,000 - 80,000 = 70,000\text{円}$

<加工費>

月初仕掛品 100kg	18,000円	当月完成品 300kg	74,000円 (注4)
当月投入 300kg	84,000円		
		月末仕掛品 100kg	28,000円 (注3)
合計 400kg	102,000円	合計 400kg	102,000円

注3) $84,000 \div 300\text{kg} = 280\text{円/kg}$

$280 \times 100 = 28,000\text{円}$

注4) $102,000 - 28,000 = 74,000\text{円}$

上記より、当月完成品原価は $70,000 + 74,000 = 144,000\text{円}$ となる。

従って、正解はアである。

第4問

(設問1)

(解答)

ウ

(解説)

安全性の分析である。

当座比率とは、短期的に現金化できるかどうかという観点から、流動資産から棚卸資産を除いた当座資産を用いて、流動負債との比率を求める指標であり、流動比率よりも短期的かつ確実な返済能力を示す指標である。

計算式は、 $(\text{流動資産} - \text{棚卸資産}) \div \text{流動負債} \times 100 (\%)$ となる。

従って、 $(170,000 - 5,000) \div 100,000 \times 100 = 165 (\%)$ となり、正解はウである。

(設問2)

(解答)

エ

(解説)

効率性の分析である。

固定資産回転率は固定資産の活用状況を示す指標で、この数値が高いほど固定資産が有効に活用されていることを意味する。

本問の対象は有形固定資産であることに注意して計算する。

計算式は、 $\text{売上高} \div \text{有形固定資産 (回)}$ となる。

従って、 $1,000,000 \div 120,000 = 8.33\cdots (\text{回})$ となり、正解はエである。

第5問

(解答)

ウ

(解説)

ポートフォリオ理論に関する問題である。

解答群のウについて、接点ポートフォリオである点Cは、無リスク資産Aを組み込んだ場合に、最もリターンが高くなるポートフォリオとして定義されるが、投資家の満足度が最大になるポートフォリオとは限らない（選択肢エを参照）。

他の解答は適切であり、従って、正解はウである。